

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 20 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24830024

研究課題名(和文) 中国の「世界の工場」時代は終わるのか？ 沿海部産業集積の定量定性分析

研究課題名(英文) The End of "China as Workshop of the World"?: Empirical Analysis on Chinese Coastal Industrial Clusters

研究代表者

伊藤 亜聖 (Ito, Asei)

東京大学・社会科学研究所・助教

研究者番号：60636885

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトでは、中国沿海部に集中してきた製造業が、2000年代後半以降にどのような変化を遂げつつあるかを、産業立地に注目して検討した。地域・産業データを用いた分析の結果、沿海部の産業集積地での「集積の経済性」の発生と、労働集約的産業の内陸部への移転は同時に観察された。このことから、中国製造業は、沿海部での規模を維持しつつも、内陸部へと取引ネットワークと立地が拡散しつつあったと言える。地域別貿易データの分析からも、中国中西部の輸出額の急増が確認され、とりわけエレクトロニクス製品の組み立てを担うEMSの移転が大きなインパクトをもたらしていることが判明した。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we examined spatial reformation of Chinese manufacturing industry during the late 2000s to 2012. Results of analysis using region-industry data suggests "agglomeration force" and "dispersion force" are simultaneously observed. It can be said, while coastal industry maintaining the scale, firm location and trading network were diffusing to inland areas during the researched period. As a conclusion, "China as the factory of the world" due to the spatial vastness, has an internal mechanism that may maintain the high international competitiveness in wide range of product variety (from labor-intensive products to capital-intensive product).

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：中国 産業立地 産業集積

1. 研究開始当初の背景

中国で急激な賃金上昇が観察され、中国から東南アジアをはじめとした国々への企業の移転が報告されてはじめていた。中国沿海部に集中してきた製造業(「世界の工場=中国」)が、その優位性を失い、衰退するのか、また別の方向性がありえるのか、検討する意義があると判断し、研究を開始した。

基礎的な事実として、図1に示したように、中国の労働集約的製品の輸出競争力は他の新興国・途上国と比べて、突出した競争力を維持してきており、この競争力の高止まりがどのようなメカニズムによって維持されているのか、という点が研究を着手する時点でのひとつの手掛かりとなっていた。

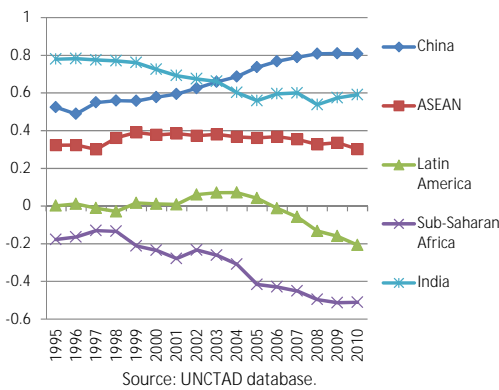


図1：労働集約的製品の輸出特化係数(輸出競争力指数の推移、(輸出-輸入)/(輸出+輸入)で算出)

2. 研究の目的

以上の問題意識と事実をもとに、中国沿海部の製造業、とりわけ労働集約的な産業に注目し、産業集積地でどのような変化生じているか、そして中国国内の他地域、とりわけ中西部も視野に入れることで、中国国内での労働集約的産業の持続性を検討することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

産業データと貿易データを用いた定量分析と、産業集積地でのインタビュー調査を行う定性分析を実施した。

定量分析では、とくに地域産業データを用いて、2004年から2010年にかけて、地域産業の成長率がどのような要因によって決定されているのかを分析した。

定性分析では、とくに広東省の珠江デルタ地域の産業集積地(東莞市、中山市、深セン市)で調査を行い、有力な産業集積に注目して分析を加えた。また内陸部の四川省成都市においても調査を実施した。

4. 研究成果

地域・産業データを用いた定量分析の結果、沿海部の産業集積地での「集積の経済性」の

発生と、労働集約的産業の内陸部への移転が同時に観察された。このことから、中国製造業は、沿海部での規模を維持しつつも、内陸部へと取引ネットワークと立地が拡散しつつあったと言える。地域別貿易データの分析からも、中国中西部の輸出額の急増が確認され、とりわけエレクトロニクス製品の組み立てを担うEMSの移転が大きなインパクトをもたらしていることが判明した。こうした産業立地の変化により、これまで貿易関係の弱かった中国中西部地域とASEAN地域の取引関係も一部強化されていることが判明した。

ここではごく基礎的なデータの提示にとどめるが、図2は、中国工業生産額に占める、沿海部と2大デルタ地域のシェアを示したものである。1980年代以降の改革開放期は基本的に産業の集中を伴うプロセスであったが、2004~2006年を頂点として、沿海・デルタのシェアが低下し始めていることが確認できる。産業立地の大幅な変化と、国際市場における中国製品の競争力の高止まりが同時発生したのである。この背景にあったのが、定量分析でも指摘された中西部への移転による競争力維持と、同時に産業成長の一要因として特定された産業集積の効果である。

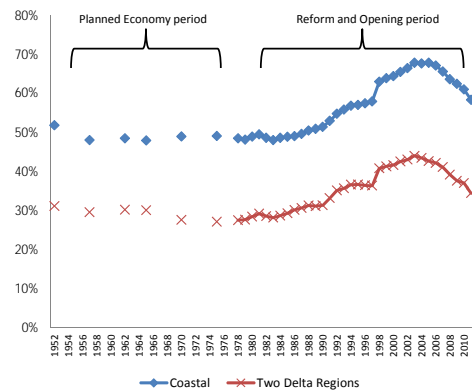


図2：中国の工業生産額に占める沿海部(青線)と2大デルタ地域(赤線)のシェアの推移(1952~2011)

この産業集積の効果も、実態に即して理解するために、定性的な調査も実施した。その結果、沿海部の有力な産業集積が、地域産業の取引制度の整備、細分化された分業の形成、より投入コストの小さい近隣地域への産業の波及、企業内部での機械化・省人化の実施により、依然として集積の規模を拡大しつつあることが判明した。また、中西部での調査の結果、沿海部からの企業移転も見られるが、内陸部内部での企業の立地変化も大きいことが確認された。

これらの分析の結果、中国沿海部の集中してきた製造業が、急激な賃金上昇のなかで、

既存沿海部有力産業集積地からの産業の拡張と、取引・分業ネットワークの拡散をもたらしていることが判明した。換言すれば、2000年代初頭に形成された「世界の工場＝中国」は、沿海部に形成された一大産業集積と取引関係を基礎としながら、中国の中西部への企業の移転と、さらにはASEAN諸国との貿易関係も組み込む形で拡張していたと位置づけることができる。

これらの研究成果を、下記の論文5件と、学会報告6件、図書(寄稿含む)3件により、日本語、中国語、英語で発信した。なお、このほかに学術誌への投稿中の論文が1件ある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

伊藤亜聖「中国沿海部の産業移転動向「国内版雁行形態」の実証研究」『中国経済研究』, 査読有、51-69頁, 2013年3月

伊藤亜聖「珠江デルタにおける「産地」の形成と拡張 中国広東省・照明器具産業の事例」『三田学会雑誌』105巻3号, 査読無し、2012年10月.

伊藤亜聖「「産地」から見た「世界の工場」中国 2000年代の台頭と変容」『商工金融』第63巻第1号, 査読無し、2013年1月.

伊藤亜聖「「闇市」から「雑貨の殿堂」へ 義烏システムの形成とインパクト」『季刊 ビジネス・インサイト』現代経営研究所・神戸大学大学院経営学研究科, No.80, 査読無し、2013年1月.

Asei ITO, “The End of “Workshop of the World”? : New Challenges for China and the Global Manufacturing Equilibrium ” , Newsletter of the Institute of Social Science, 査読無し、 University of Tokyo, March 2013.

[学会発表](計 6 件)

伊藤亜聖「中国的“世界工場”時代 終了了吗?」, 2012年9月8日、中国経済学会・黒竜江大学コンファレンス、黒竜江大学(中国語)。

伊藤亜聖「中国的“世界工場”時代 終了了吗? 国際、国内、省内産業转移的分析」, 2012年11月17日、空間経済学国際研究会(2012)、浙江大学(中国語)。

Asei ITO, “Industrial Agglomeration and Dispersion in China: Evidence from Province- and City-Level Data in the 2000s-,” Asia Pacific Economic Association, “China and the World Economy,” March 15, 2013, University of Tokyo (英語)。

伊藤亜聖「中国的“世界工場”時代 終了了吗? “世界工場2.0版”開幕?」, 2013年3月23日、中国学論壇、上海展覽中心(中国語)。

伊藤亜聖「パスワードとしての「世界の工場・中国」 登場と普及、「終焉」と「version2.0」」, 2013年6月23日、中国経済学会、京都大学(日本語)。

伊藤亜聖「中国産業转型升级的危与机: 对外投资和房地产开发导致“脱离实业”了吗?」, 2013年12月、中山大学「産業と地域経済の発展に関する国際シンポ兼経済史研究学術フォーラム」、中山大学(中国語)。

[図書](計 3 件、 1 は寄稿)

伊藤亜聖「中国的“世界工場”時代 終了了吗? -- 国際、国内、省内産業转移的分析」

赵伟、藤田昌久主编『空间经济学：聚焦中国』浙江大学出版社、2013年11月（中国語）。

伊藤亜聖「中国 ASEAN 経済関係の諸相：南進しているのは誰か？」末廣昭・伊藤亜聖・大泉啓一郎・助川成也・宮島良明・森田英嗣『南進する中国と東南アジア：地域の「中国化」』東京大学社会科学研究所・現代中国研究拠点研究シリーズ No.13、81-118頁、2014年3月。

Tomoo, Marukawa, Asei ITO, Yongqi Zhang ed. *China's Outward Foreign Direct Investment Database*, Institute of Social Science, Contemporary China Research Series No.15, University of Tokyo, March 2013.

〔産業財産権〕
出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

研究成果の一部は下記 HP で公開
China's Outward Foreign Direct Investment Database：
<http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/research/issccs/no15.html>

(1)研究代表者
伊藤亜聖 (ITO, Asei)
東京大学・社会科学研究所・特任助教
研究者番号： 60636885

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：